

平成 28 年度 第 2 回北海道立総合博物館協議会 議事概要

会 議 名	平成 28 年度 第 2 回北海道立総合博物館協議会
開催日時	平成 29 年 3 月 30 日（木） 13 時 30 分～15 時 30 分
開催場所	北海道庁別館庁舎 9 階 第 1 研修室
出席委員	佐々木亨会長、宇佐美暢子委員、大原昌宏委員、児島恭子委員、竹垣吉彦委員、本田優子委員
欠席委員	加藤忠副会長
傍 聴 者	なし

【議 題】

（1）報告事項 1

平成 28 年度 北海道博物館事業実績報告（事業実績に関する内部評価報告）
・右代学芸主幹が、総括評価の結果を中心に、内部評価結果を報告した。

（2）報告事項 2

平成 29 年度 北海道博物館年度計画報告
・舟山学芸部長、北総務部長、小川アイヌ民族文化研究センター長兼研究部長が、平成 29 年度計画を報告した。

（3）その他

・右代啓視学芸主幹が平成 29 年度の協議会（外部評価）スケジュールについて説明を行った。

【（1）、（2）に関する委員の意見】

【実績値、目標値について】

・目標に対するアウトプット、アウトカム両方の結果を報告して欲しい。

【4 北海道開拓の村の整備】

・北海道開拓の村の建物や資料の管理・整備が博物館の業務であるならば、参考資料として指定管理者の事業報告など、開拓の村の運営に関する情報を提供して欲しい。

【6 ミュージアムエデュケーター】

・ミュージアムエデュケーター機能の強化を計画にあげているが、過去 2 年間の計画・実績報告は曖昧である。より明確で具体的な計画が必要である。優先順位が低いのであれば、計画から削除することも視野に入れて検討すべきである。

【7 道民参加型組織の整備】

・平成 29 年度から最初の 2 年間で、ミュージアムパートナーをどれくらい集め、どれだけの数のサークルを作って活動を展開させるか、母体として十分に機能する組織になるよう計画し、定量的な目標を早期に定めて、トップダウン的に実施した方が良いのではないかと思う。道民参加型組織の最終形態のイメージをはっきりさせて、計画的に・速やかに事業を進めていただきたい。

- ・学芸員・研究職員がミュージアムパートナーとともにサークル活動を実施する計画となっているが、実際に、博物館の職員がサークル活動を実践するために、他業務とのバランスを保つことができるのか、検討して欲しい。
- ・他館の事例では、組織の立ち上げから成熟まで、北海道博物館の計画案よりももっと短期間で組織化した。時間をかけすぎのように思えるので検討して欲しい。
- ・調査・研究中心のサークルだけでなく、北海道博物館に来る人々の裾野を広げる意味でも、ゆるやかな活動のサークルも、ぜひつくって欲しい。

【 8 施設及び周辺環境の整備】

- ・指定管理者、指定管理業務の実態、業務実績等の適切な把握が重要である。
- ・新札幌のバス乗り場で、北海道博物館に行きたい外国人、あるいは、バスの運転手に行き方を確認している外国人の姿を頻繁に見る。乗り場の英語表記、英語案内が不十分に感じるので、検討していただきたい。

【 9 広報】

- ・赤れんがサテライトの改善は、具体的に何を改善したのか、一見したところ、サテライトの役割が不明確に感じる。アイヌ民族文化に関する展示資料がもっとあると良い。赤れんがサテライトの役割は、北海道博物館がどのようなところかを理解させる点にある。
- ・広報は、投げ込みだけではなく、記者会見を開き、レクチャーを実施するなど、積極的・効果的な方法を検討して欲しい。

【 10 評価制度の活用と利用者ニーズの把握】

- ・博物館利用者のニーズを把握し、利便性を高めるためのオーディエンス・リサーチが必要である。満足度調査以外に、利用者が求めるものを調査することも重要である。専門家のコメントとオーディエンス・リサーチの結果を組み合わせると、より効果的である。

【 12 情報発信】

- ・ツイッターのレスポンスはどれくらいか示して欲しい。

【 13 研究成果の発信と社会貢献】

- ・マスコミへの投げ込み、ニュースリリースの数はどれくらいあるのか、実績を示して欲しい。

【ガバナンス体制の育成】

- ・情報発信に関するワーキングチームの発足や、ミュージアムエデュケーターの育成など、計画通りに進んでいない事業については、内部ガバナンス体制を強化して、計画策定や事業の実施、実績の記録に漏れがないように行って欲しい。
- ・平成29年度計画の実施は、全体業務のバランスがとれるのか。優先順位を明白にして、業務の削減をはかることも視野に入れて、検討を行って欲しい。